

# ¡Hola, amigos!

第079号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年09月23日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは078号(09月16日)、077号(09月09日)

076号(09月02日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



---

**\*今週号\*** No. 079 (2005年・第39週) 09月23日更新

---

---

## 「天高く・・・」の巻

---



皆さん、こんにちは。日本はすでに、秋の気配、らしいですね。

これは最近の朝の浜の様子で、これを見る限り、カアデイスも秋かあ、と思うでしょうが、サニアラズ。スペインでも北はもうとっくに秋ですが、カアデイスはなかなかそう簡単に「秋」にはなりません。朝のうちはこんな調子ですから、せつせと歩かな

いと肌寒いくらいですが、陽が高くなると途端に日差しが強くなります。

ここでは、どうも春とか秋という季節感は希薄で、冬から突然夏になり、夏が過ぎて気がつくともう冬、という感じ。その変わり目には暫く不安定な天気が続きます。

引っ越しは去年10月の末でしたが、当日も雨模様。その後も暫くスカッとした天気ではありませんでした。3月もあんまりすっきりしなかった憶えがあります。天高く馬肥ゆ、と言いますがこの辺で見る馬はどれもスマートです。車社会になる前は頑丈な農耕馬だった筈ですが、道産子のようなのは見たことがありません。専ら競馬と馬術のための馬で、馬車馬も優雅なことは先週の写真の通りです。



海浜食堂チリングートも開店休業同然。こういう店はヤッパリ焼け付くような太陽が味方です。もともと特別旨いモンなんて出す店ではないし、暑いときのヒエヒエのセルベサやサングリアだけが勝負ですからね。

秋分の今、日出は08:15、日没は20:25。浜に日がさしてくるのが8時40分頃。我が家の食事時間帯は朝9時台、昼14時台、夕20時台で安定。夕食時間はイイとして朝も昼も忙しい日本の皆さんにはお叱りを受けそうな時間ですが、お天道さまと一緒に生活すればこうなるのです。原始の生活習慣に近いかな？

\*

Nのメール・ボックスが不調で、8月の下旬以降、正確には21日からと思いますがNのメールアドレス宛に下さったメールを受信できないままでした。原因はウイ

ルスやハッカーなどのセキュリティ対策のためネット購入したソフトが思うように機能してくれなかったためだと思います。

私達は日本から離れた生活をしていますから、Eメールでの友人・知人との交流とネット・バンキングはここでは欠かすことはできないのです。。

最近、フィッシング詐欺とか個人情報流出、スパイ・ウェアと色々聞くにつけ段々不安になってきました。前にウイルスにやられて暫くメール交換をストップせざるを得ない状況になり、その時の不都合を考えると年間5千円程度の負担はやむなしと思えました。まんまと売り込みにハマったとも言えます。

欲張って、対ウイルス、対ハッカー、個人情報保護、迷惑メール防護、と4点セットを導入したんです。例によって難解な日本語に悩まされながらインストールしたんですが、頭の上にクエッション・マークを乗っけながらやった手順に何か失敗があったとしか思えません。それでも四苦八苦のすえようやく正常に戻せたと思えます。

結局、インストール済みの四つ全部を一旦アンインストールして、最初からやり直したんです。それで一応OKのように見えました。ところが、今度は画像を添付したメールが送信できないとか、画像つきのものが受信できないとか色々ありました。とにかく暗中模索の末、何とか旧に復せたと思います。ホントにやれやれです。

8月21日以降Nに下さったメールもやっと全部読み取れたと思います。現在はまだテスト中ですが、いずれNからメール・ボックス復活の案内を差し上げます。けれどもこの項をご覧になった方は今後はNのメール・アドレス宛に送信して下さっても差し支えないと思います。どうもご迷惑をおかけしました。

ソレニツケテモ、パソコンの画面に出てくる日本語は実に分かりにくいですね。それはソフトが外国製で、その翻訳が稚拙だからなのか？ それともこのギョーカイのヒトの独特の日本語なのか？ 本当に日本語か？と言いたいですネー。

そうでなくてもナニ言ってるんだかなのに、こんな日本語解るわきゃないわな。

「ハイ」「全部ハイ」「イイエ」「全部イイエ」なんて四択があるかつテンダ。\*\*\*

---

## 「サンタ・マリア」の巻

---

正式名は、エル・プエルト・デ・サンタ・マリア El Puerto de Santa María と長ったらしい名前ですが、先週のチクラナ同様、普通は単にサンタ・マリアと言っているようです。この町はチクラナとは違って個性ある町といっていいいでしょう。

ここはその昔、内陸の隣町ヘレスの町で造ったシェリー酒(ヘレス)をイギリス向けに積み出した港町だったのです。イギリスでブリストル・シェリーと言ってるのは、この港から英国ブリストル向けに積み出され、ブリストルでは樽から瓶への詰めかえだけをしていたもの(の筈)です。

どの国でも同じですが、開港(貿易港)は外国の脅威に直面する事が必然で、常に外界に眼を向け、且つ異文化と調和もしてゆかねばならぬ宿命にあると思います。日本でも古くからの港町は内陸の都市とは一味違うことを感じませんか？

この違いは、その町が単に海に面しているか否かではなく、開港を持っていて現実に通商があり、住民が外国人と接する機会があったかどうかによると思います。

このことは、前に住んでいた海に面しているだけのベナルマデナの町と、今住んでいる古くからの港町カァデイスの違いでもあるし、先週行ったチクラナと今回のサンタ・マリアの違いでもあります。

片や閉鎖的、他方は開放的と決め付けてしまうのは言いすぎでしょうか。

チクラナに行った日は、偶然、町のお祭りの日でしたから、仕方がないと言えば仕方がないんですが、案内所が開いてもいなかった。お祭りなんだから、それを見にヨソから来た人は当然案内所へ聞きに行くに決まってますね。でも、肝心のその日に、平日にもかかわらず案内所を閉めちゃっていた。

ところが、サンタ・マリアの案内所では、こっちが何かを言う前に、いきなり英語で May I help you? と言われました。スペインでは初めての経験です。古くからイギリスと繋がりがあっただけでなく、広くソトに眼を開いていたということの証でしょう。こりゃとてもスペイン語が通じる相手じゃナイと見られたのかモ。



カアデイスからサンタ・マリアに行くには三通りの交通手段があります。まずカアデイス湾を大きく迂回する近郊電車、細い黒線がそれ。次に湾を横断する橋を渡ってゆく近郊バス、N-443という太い赤線とA-4の白線を通って行きます。最後はカアデイスの港からの赤の折れ線、両港を結ぶ連絡船です。いずれも30分余り。

去年、私達が部屋探しに通っていた頃、イサール IZAR という国営造船所が大規模のストをやっていました。この造船所はプエルト・レアル Puerto Real とサン・フェルナンド San Fernando それからカアデイスの三都市に工場を持っているので、プエルト・レアルで良くピケを張っていました。道路も鉄道もこの町で抑えてしまえば三都市の交通は麻痺してしまい、組合側にはきわめて効率的です。

私達も一度それに引っかかりそうになったことがありました。電車がヘレスの町に差し掛かる前に、この電車はサンタ・マリアで停まるかも知れない、と案内があったのです。そのとき隣のセニョーラがカアデイス迄行く私達を心配してくれて、この連絡船の事を教えてくれました。結局電車は停まらずに無事通過できましたけどね。



電車やバスでは何回も通っているので、この日はオバさんに教えて貰った連絡船の逆コースで行ってみました。船はカアデイスのフェリー埠頭から出ます。フェリー乗り場はこの通り Estación Marítima 海の駅です。日本では馴染のない言い方ですね。久しぶりに見る船上からの港。見慣れたカアデイス港もまるで初めてきた港。その通り、この港には海から来た経験はないんです。そんな景色を船尾に見ながら出港。





これはサンタ・マリアのアプローチ。方位は90度近く左回りにずれて左手が北です。ここは河川港。日本ではあまり多くありませんが外国では非常に多い。ハンブルグ、ブレーメン、ロッテルダム、ロンドン、例のニュー・オーリンズも河口から70数海里・約7時間も上流の港です。ベネズエラのオリノコ河では百数十海里、20数時間も上流の港へ行った事もありました。大規模港湾建設の技術がなかった頃は広くて深い河口を持つ河は手っ取り早く良港として利用できたんですね。

まあ、ここはそんな大規模な港ではありません。帆船時代の規模のままシボンでしまった感じです。海から河口に向かって左側にプエルト・シェリー Puerto Sherry というところがありますね。これはマリーナですが、昔この河からシェリー酒を輸出していたことを記念しての命名でしょう。更にその左には砂浜が広がります。

河の入り口に長い導流堤。河川港はこれがないと具合が悪いのです。汐入河では上げ潮になると河口付近では水流が川上に向かうので土砂の逃げ場がなくなります。引き潮になった時の川の流れを本来の河口部分で分散させないように一気に深い所まで導いて河口部の土砂の堆積を少なくしようというのが狙いです。勿論、防波堤の役目もありますが、ここでは波は大きくないので流れのコントロールが主たる目的。





導流堤の先端をかわして河に入ってゆく連絡船。カアデイスからの客は30人ほど、  
大部分はグループ行動のスペインの人たちのようでした。



河口に近い部分の市街地の対岸(左岸)はこの程度の小型の内航貨物船のための埠頭。  
カアデイスは外航船主力で内航船でもカナリー諸島向けなど外洋へ出る大型の船が殆どですが、ここでは喫水にもよりますが総トン数で精々2千トン位まででしょうか。



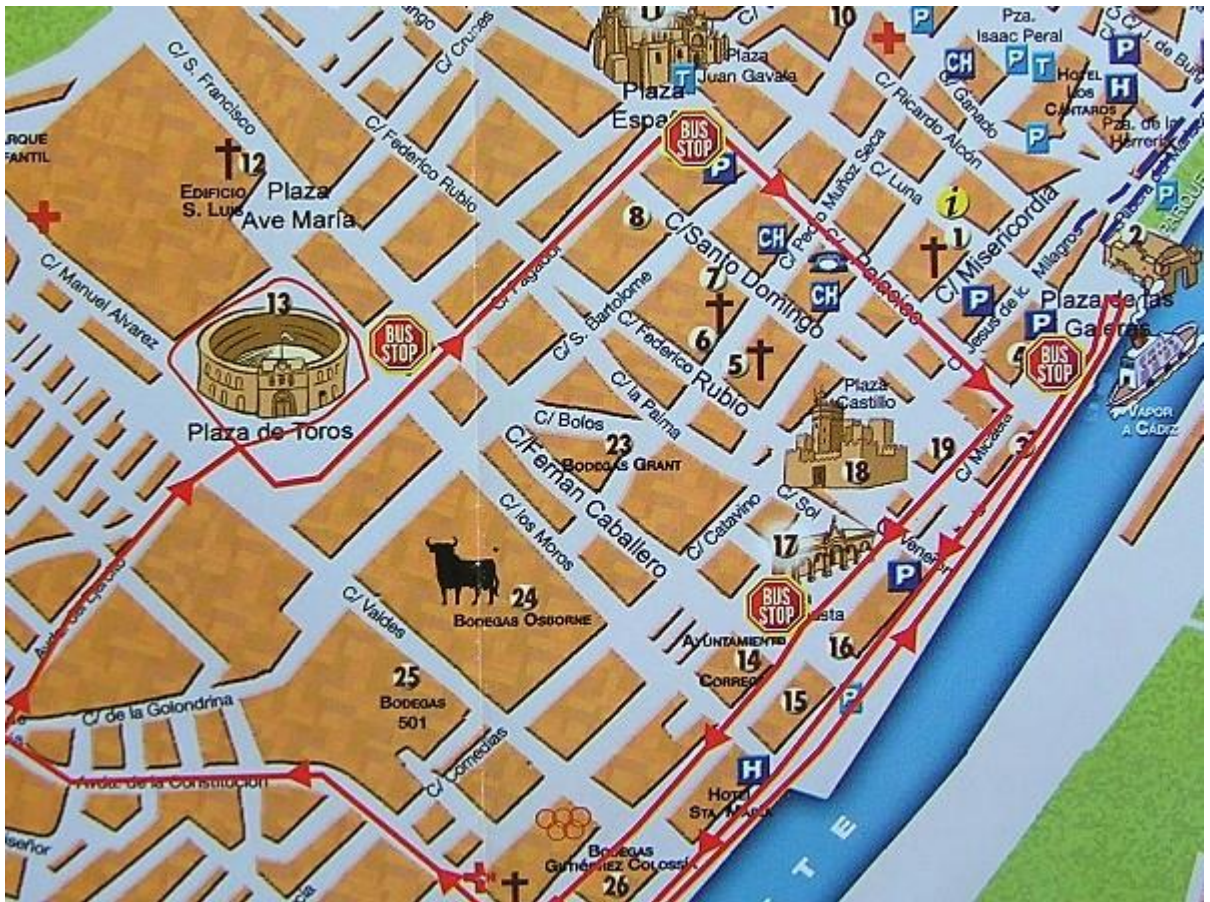
小型貨物船埠頭の次は右も左もマリーナ。中央が河口ですがそのはるか向こうに見えるのがカアデイスです。この写真の右手の外海側、上の地図でプエルト・シェリーの左手の海岸に Playa de Sta. Catalina という所がありますが、それが今日の私達の目当て。また、万が一の引越し先探しです。べつに引越し予定があるわけではなく、あくまで今の部屋代がフトコロに合わなくなった場合の予防線。予備調査。



マリーナの上流、市街地の対岸にはトロール船がズラリ。左手の薄茶色のかまぼこ型の屋根が魚市場。生活直結の魚の水揚げは街に近い方がいいに決まっていますね。



これが人気の連絡船アドリアーノ・Ⅲ号 Adoriano Tercero。木造のかなりのオンボロです。コレは三代目、三代で75年間両港を結んで客を運び続けたそうです。驚いたことに私達が下船した後、カアデイス行きの客はこの通り。定員200人殆ど満席だった筈です。乗客の殆どは近在のスペイン人観光客と見えました。こんな船がどうしてそんなに人気なのか？ 後で観光案内所に行ったら州と市が協賛で出版した75周年の記念パンフレットがおいてありましたが驚くほど立派な装丁でした。初代の蒸気船はこの街の人たちにとっては大切な記念碑的な船らしく、この三代目はディーゼル船なのにバポール(蒸気船)と呼んでいることからそれがうかがえます。



またまた地図です。とにかく地図が好き、どの町へ行ってもマズ地図を貰うか買うかから始まりです。イヤ、行く前からか？ 地図なしで知らない町を歩くなんて、ヒトに聞くことが嫌いな人間には考えられません。スペイン人に道を聞かれることはあっても聞いた事はない。船を下りた所は右端、船の絵の所。船の下に VAPOR A CADIZ と書いてあるのが読めるでしょうか？ カアデイス行き“蒸気船”です。

案内所まではまっすぐ約200メートル。例の May I help you? のオナーさんに地図と乗り合い観光バスのパンフを貰いました。セニョリィタは私達の国籍とこの町へは初めてかどうかを聞いてノートに書き込んでいました。やる事がキッチリしていて好感度二重丸。スペインでは稀なこと。Have a nice day! とアイソも申し分なし。地図の赤線が乗り合い観光ルート、出発点はさっきの棧橋です。そこへ戻って暫く待っていましたがナカナカ来ません。目の前に市内循環の市バスが止まっています。この循環バスもここが起点なんですね。バス停に掲示してあるルート・マップを見ると乗り合い観光ルートよりはるかに広い範囲を回ります。しかも観光バスは一人9ユーロに対してこっちはタッタの54銭。ウーン、こっちにしよう、と急遽変更。

バスがここで待機し始めてからカナリ時間がたっていました。もう乗るべき乗客はと

っくに乗り込んで時間調整のためだけに停まっていたんですね。私達がこっちのバスにしようと思ったとたん、プシューっとバスのドアが閉まりました発車です。私達があわてて駆け寄るとドライバーのオニーさんはニヤツとして空けてくれました。私達が、乗るのかな、乗らないのかな、とバックミラーでずっと見ていたんでしょうね。ニヤツ、は、ヤッパリこっちにしたかという意味だったんでしょう。このバスは巡回コースがやたらと長い、河の向こう側の海岸まで殆ど市内全域を回ります。全部回ったら軽く1時間半は掛かるでしょう。勿論、今日の私達の目当て、町の外海側の海岸、プラヤ・デ・サンタ・カタリィナの近くも通ります。54銭(約75円)でこんなに乗ってもいいのかというくらい。音声ガイドはないけれど観光バスの数倍もの距離を走って、市内のめぼしいところは殆ど回って約一時間後に私達の目的の海岸近くでバスを降りました。全ルートのおよそ8割以上は終了した筈。残念なことにこの海岸も私達には向かないところでした。理由はチクラナのドイツ村と全く同じ。殆どが一戸建、30分に一本のバス便だけ、スーパーもなし。



これはサンタ・カタリィナの海岸から見たカスティージョ・サン・セバスティアン。いつもベランダから見ている方角と約90度違う視点です。ここからの景色も悪くない。水平線に沈む夕日もカアディスへの入港船もバッチリ。だけど私達が借りれるような家はないし、生活するには車がないと超不便です。バス便はさっき乗ってきた路線だけ。30分に一本はまだしも、問題は何か一方向回りだけらしいこと。私達はほぼ全周近く回ってから降りたんですが、その間、明らかに土地のヒトと思えるオジさん・オバさんもずっと乗っていました。と言うことは反対回りはナイ！

砂浜の小高くなったところでカアデイス方面を見ながらオベント・ボカディーヨ。降りたバス停のひとつ手前のバス停まで、海岸近くを歩きながらあたりの住宅の様子を見て、こりゃとてもダメだとガックリ。じゃ町へ帰って見物してから帰ろうとバス停に行きました。降りたところは小さなバス停の標識しかありませんでしたが、今度のはちゃんと屋根つきベンチがあります。でも、それも一方向だけ。

私達のほかにバスを待っていたのは顔見知りらしいオバさん二人、どうやらどこか近くの邸宅のお手伝いさんがお互い仕事を終わっての帰りらしい。そして、バスが来ました。乗り込むとドライバー君がオーラ。あれれ、さっきのオニーさんです。向こうもビックリしたでしょう、何しろ目立つ二人ですからね。今度は町まで10分少々で元の乗車地点に戻りました。結局この路線丸々一周乗ったことになりませんが、その間反対回りのバスとは一度も会わずじまい。ヤッパリー方向循環のバスなんですね。この後市街地にあるめぼしい所をブラブラ歩いて一巡り。



古い町にはどこにでもアル古いお城。こういうものは、もうどうでもいいナー。



これもまた、どこに行ってもあるモノ。最近、軍事にも宗教にも、もう全くウンザリ。



これもウンザリもののひとつ。楽しみを為に大勢寄ってたかって牛をイタブった挙句  
刺し殺して大見得を切る。そして牛を極楽往生させた、とは大いなる欺瞞。  
最近スペインでも闘牛反対を唱える動きが出だしたようで、時々テレビに映ります。  
当然と言えば至極当然。私達は動物愛護協会とは何の関係もありませんけどね。



これは18世紀バロック建築の旧魚市場。市街地の真ん中にあるので具合が悪くなったのでしょう、現在魚市場は連絡船棧橋の対岸に移っています。この建物、今は何に使われていると思いますか？ なんとディスコです。魚市ディスコ、これはイイね。コテコテに着飾ったマタドールが牛を殺して大見得を切ってみせる闘牛より、少々喧しくても魚市改装のディスコで踊り狂う若者のほうが罪がないか。

少なくとも見得の為に牛を殺すなんてことはない。闘牛はある種の儀式だと思うしかないでしょうがどうにも好きになれません。伝統だと言うなら、悪しき伝統、文化だと言うなら古き文化と言わざるを得ない。反対論者に対抗して色々と理由付けをしているようですが、所詮前時代的な理屈でしょう。まあ、近代国家が威張ってするようなシロモノでないことは確か。ピレネーのさきは地獄だ、なんて悪口言われてもしょうがない。カアディスにも昔はあった闘牛場が、何故か今はありません。上等上等。

\*

連絡船棧橋の近くに変ったものがありました。帆船時代、ここから出港してゆく船に水を供給した給水設備です。今でこそ外航船には海水を蒸留する造水装置があつて飲料水以外の雑用清水には不自由しなくなりましたが、一昔前迄は水の管理は大変でした。いつ目的地へ着けるか分からない帆船ではもっと切実だったでしょう。





白い部分が水タンクで多分地下深く掘ってある筈。この向こう側はすぐ栈橋です。



あちこち見物しながらこの鉄道駅まで歩き、電車で帰りました。今日も先週に引き続き収穫なし。見物も闘牛場・古城・カテドラル三点セットでややウンザリ。\*\*\*

---